

## カツオ漁況調査

調査担当 技手 上 池 清 吉  
新 垣 盛 敏

### 趣 旨

カツオ漁期と重なったので回遊状況を調査して漁業者の参考に供するため行った。

### I 調査概要

1. 調査期間 1964年5月21日～5月25日まで
2. 調査海域 沖繩、宮古、八重山近海（別紙参照）
3. 使用船舶及乗組員
  - a、国南丸（15931噸 100HP）
  - b、中村船長外20名
4. 調査費項
  - a、海況調査
  - b、回遊状況調査
  - c、沖繩の生育状況調査
5. 調査方法
  - a、予定の観測点で海洋観測を実施し、又随時、随所において海況を調査した。
  - b、カツオの浮上群や海鳥群を発見すると共に海鳥の行動に注意し回遊の状況を調査した。
  - c、カツオの餌料となる沖繩の生育状況をカツオ群の捕食状況から調べた。
6. 調査経過
  - 5月20日 15時15分泊港発 22時37分ST 1で海洋観測実施
  - 5月21日 st2, st3, st4 において海洋観測実施日中はカツオ群の発見はつとめた。又随時、随所で水鳥の観測を行った。
  - 5月22日 st5 で海洋観測、カツオ群を探索しながら随時水鳥観測。16時30分平良港入港漁況速報配布
  - 5月23日 15時50分平良港出港、21時30分st6 で観測実施
  - 5月24日 st2, st6 で観測実施、日中はカツオ群探索、海況調査
  - 5月25日 st9 で観測実施、日中はカツオ群の探索、海況調査 17時56分石垣港入港漁況速報配布

### II 調査結果

#### 1. 海況、海況

第一表 調査結果表

設点 月日番号	位置	調査 時期	鳥 況		相 上 群	群 状 況		伸 縮 生 育 状 況	其 の 備
			天候気温	水深水色		鳥	群		
5.20 1	25-45 12A-16	22-57	0	25.5 25.8					
5.21 2	25-43 12B-10	04-15	0	25.9 25.8					
5.21 5	24-42 12C-4B	09-50	B	26.0 25.9	2	40	中群1.小群1の外群をな すもの数見ざる		
5. 4	24-38 12D-4B	17-10	0	26.0 26.1	2	33	中群1.小群1を頭見、附近 に鳥島多く群2を見る		
5.22 5	25-29 12E-04	06-40	R	25.3 26.8	3	50	イ、カ群見少 イルカ群見		観察上注意多し
"	25-13 12A-39	11-15		26.2					
"	25-10 12A-45	12-00	bu	25.5 26.2	2		小群見少		
5.23 6	24-27 12A-59	21-30	b	26.6 26.8			海鳥見ざる		
5.24	24-14 12A-26	00-00	bu	26.6 26.7	2		附近に他の一群発見		
"	25-27 12A-27	08-00	3	27.0 27.1	2		大群発見、中、小羽 カガキ成入江見ゆる 中二羽羽見カガキ成	小羽カガキ成カガキ成見ゆる	
"	25-19 12A-24	09-45	3	27.1 27.2	2		附近に大群2発見		
"	12B-32 12C-40	14-08	bc	28.5 27.7	2	33	附近の各群1群より強弱又海 面に鳥島群見上中		
"	23-07 12B-40	18-25	b	29.5 28.4	2	43	中群2を発見		
5.25		07-00		27.0	2				
"	24-49 12B-46	09-05	0	26.7 26.9	2	39	鳥群4群を発見	小羽カガキ成見ゆる 附近に鳥島見ゆる 中群カガキ成見ゆる	
"	24-52 12A-08	12-00	0	27.2 27.0	2		群5の群1.又4群多し		

## 1. 漁況、海況

調査の始末からカツオの浮上群 8 群（内宮古地区 1 群、八重山地区 7 群）鳥群の状況からカツオ群と認められる鳥群 17 群を発見する外、調査航路線上には至る所海鳥多く已にカツオ群は相対回遊しているものと考えられる。又測定水温も  $26^{\circ}\sim 27^{\circ}$  を示し、カツオの適水温に達した。水温を地域別に見ると宮古地区は  $26^{\circ}\sim 27^{\circ}$ 、八重山地区では  $27^{\circ}\sim 28^{\circ}$  で宮古地区より  $1^{\circ}$  高目を示していることは同地区が宮古地区にさきがけて産期に入ったものと言えよう。波照間島を南下する 30 哩程と、これから東方へ 50~100 哩程の水域附近は水温も一番高目を示し、こゝでは浮上群や鳥群が多数発見され、主産場を形成していることでも分る。魚体も中、小型のものが見られるようになったこととカツオ群の回遊が活発化して産期に突入しつつあるものと考えられる。尚沖餌としてはトビウオやフグの小さいのを捕食している。

次にカツオの漁獲状況と餌料の需供状態について宮古、八重山地区で聴取したところによれば宮古地区では漁獲振わず、八重山地区の方は成績が良いとのことである。ところで餌料の需供状況は反対に宮古地区は良好で現在、バカシヤコを採捕しているが豊富でありテンジクダイも出廻つて来たので益々良くなるだろうとのことであつたが、八重山地区では採捕量少なく需要量を満たせない状態で、出漁出来ない船もあつて居つて居るとのことであつたが餌が多く、出漁さえすれば大漁しているとのことでした。今後餌料の成長と、海面養餌による増加で需供が円滑になれば好漁が期待される。宮古地区においても水温の上昇と共に次第に産期とされるものと考えられる。

### 漁況、海況資料

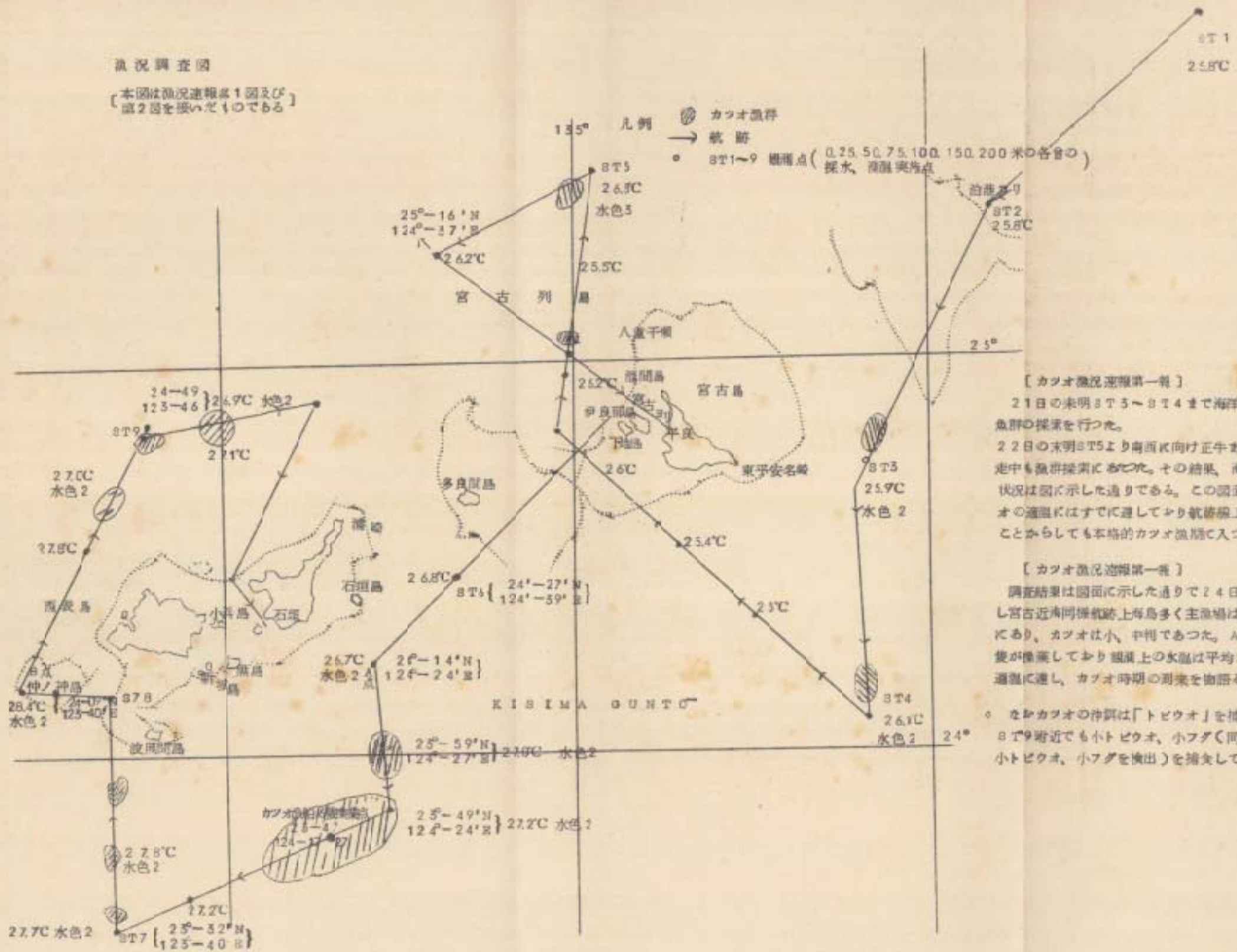
#### 第一表 調査結果表

#### 第 5 図 第 6 図

結果は漁況速報として配布した。尚本調査は近海マダロ漁獲調査と兼ねて其の前期に行つた。水温、塩素量測定結果表は近海マダロ漁獲調査の分に含めた。

漁況調査図

[本図は漁況速報第1図及び第2図を接いだものである]



【カツオ漁況速報第一報】

21日の未明BT5~BT4まで海洋観測を実施しながらカツオ漁群の採集を行った。  
 22日の未明BT5より南西に向け正午まで採集、さらに宮古向け航走中も漁群採集にあつた。その結果、南島漁群の発見場所と水温の状況は図に示した通りである。この図面に示した水温からしてカツオの適温はすでに達してあり航跡線上いたるところに再島の多いことから本格的カツオ漁期に入ったものと思われる。

【カツオ漁況速報第二報】

調査結果は図面に示した通りで24日の未明A点より調査を開始し宮古近海同航跡上再島多く主漁場は石垣島より南へ55裡地点にあり、カツオは小、中判であつた。A地点においてはカツオ約6隻が獲れており航跡上の水温は平均27°C水色2とカツオの好適温に達し、カツオ時期の到来を物語るものである。

- なおカツオの仲割は「トビウオ」を捕食している(南漁場)
- BT9附近でも小トビウオ、小フグ(同地で釣つた万引の腹中より小トビウオ、小フグを検出)を捕食しているようである。